



# 本場認めた 挑戦者の高音

## 藤木大地 カウンターテナー

女声の音域を歌うカウンターテナーとして、めざましい活躍を続ける藤木大地が2月8日、大阪で初めてのリサイタルをザ・フェニックスホール（大阪市北区）で開く。アジア人初となったオペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場での鮮烈なデビューから間もなく2年。長年の夢だったという「声楽界のメジャーリーガー」としての地位を確立しつつある今も、「新しい曲、舞台に挑戦し続けたい」と語る。（青木さやか）

曲目は、マルティニーの「愛のよろこびは」、中田喜直の「さくら横ちょう」など。西洋音楽を輸入した明治以降の日本の歌曲とイタリア、ドイツの曲を並べて演奏することで、「明治以降の日本の音楽に何が起ったか、変化に目を向けてほしい」という。西洋、日本がともに抱える「戦争」というテーマにも向き合い、人間について考えてもらいたいと、武満徹作曲の反戦歌「死んだ男の残したものは」も盛り込む。

テノール歌手としてスタートしたキャリアは当初、順風満帆に見えた。東京芸術大卒業後の2003年、東京・新国立劇場でもデビュー。「声楽界のメジャーリーガーになりたい」と願った。

しかし、技術の壁を感じるようになって歌に嫌気が差し、ヨーロッパでの選考も連敗が続いた。今なら人生やり直せる」。そう思ってウィーンの大学院で文化経営学

## 来月 大阪で初リサイタル

を専攻し、経営面から音楽家を支える道を模索したが、音楽と距離を置いてみて自覚した。「やっぱり歌が大好きなんだ」と。自らの新しい可能性に目覚めたのは、たまたま風邪をひき、裏声の高音で練習した時だ。11年に声域を転向してコンクールやオーディションに再挑戦すると、次々に好成績を収めるようになった。

大阪には3月にも訪れ、フェスティバルホール（大阪市北区）で行われる大阪フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会に出演する。披露するバインスタインの「チチエスター詩篇」は、声域転向後に初めてイタリアのコンクールで本選通過し、歓喜した思い出の曲だ。「大フィルのゴージャスな音で、天才・バインスタインにしか書けないメロディーを届けたい」と興奮気味に話す。

日本の声楽界に新たな道をひらいた「開拓者」であり、「挑戦者」として今後もヨーロッパの舞台に臨み続ける決意は変わらない。いつまで歌えるかわからないのが歌手。半年後は声が出ないかもしれないという危機感をいつも胸に、一つ一つ、挑んでます」

2月のリサイタルは全席完売。大フィルの定期演奏会は、3月22日（午後7時開演）と23日（同3時開演）で、指揮はレナード・スラットキン。☎06・6656・4890。